

令和7年度 学力向上のための重点プラン【小学校】 新宿区立戸塚第二小学校
 ■ 学校の共通目標 【HP公開用・様式1・7年5月12日】

授業作り	重点	主体的な学習に向けて、児童自身が選択する機会を多く設ける。
環境作り		授業の流れやノートの取り方を掲示して、全校が共通の流れで学習に取り組むようにする。また、授業規律の徹底を図る。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		・語彙を増やし、日常生活の中で使えるようにしていく。 ・自分の思いや考えを書いたり、発表したりして表現する力を伸ばしていく。 ・10までの数の構成（合成・分解）を理解させる。 ・加法と減法の計算の仕方を身に付けさせる。	①朝読書の時間を定期的に確保したり、読み聞かせを行ったりして本に触れる機会を増やす。 ②学習の振り返り、感想文など、自分の思いや考えを書いたり、発表したりする機会を増やす。 ③具体物の操作を取り入れ、確実に理解させる。 ④朝学習等で基礎的な計算に繰り返し取り組む時間を確保する。 ⑤タブレット端末、デジタルドリルを活用する。
2 学 年		・語彙を豊かにして、日常で使えるようにしていく必要がある。 ・書くことへの抵抗感をなくし、書く力を育てていく。すすんで自分の思いなどが書けるよう、全教科を通じて、自分の考えを書く時間を確保する。 ・繰り上がり、繰り下がり計算処理を確実にできる力が必要である。	①学校図書館等と連携し、並行読書や調べ学習など、読書環境の充実を図る。 ②学習の振り返り、感想文など、自分の思いや考えを書く機会を増やす。 ③デジタルドリルを活用する。 ④朝学習等で継続的に、プリントに取り組む時間を確保する。
3 学 年	・「は」「を」「へ」など言葉を繋げるはたらきの言葉を身に付け、文章を構成していく力が必要である。 ・算数では、基礎的な計算能力、問題をしっかりと読み取	・日記を通して、文章を書く力を身に付け、順序良く書くことができるようにする。 ・計算の習熟度に個人差が見られるため、九九では、繰り返しの復習を	①学校図書館等と連携し、並行読書や調べ学習など、読書環境の充実を図る。 ①デジタルドリル、計算プリントなどの活用

	る力の向上が必要である。	通して基礎的・基本的な計算力を身に付けられるようにする。	
4 学 年	・学習に対する意欲が高い児童と高くない児童の差がある。 ・国語では、説明文や物語文の読み取りの力、文章を要約できる力も児童によっての差が大きい。 ・書く内容を明確にして、文章を構成していく力が必要である。 ・算数では、基本的な計算能力や知識の定着、正確に作図する力が必要である。	・全教科の学習を通して、学習者主体の学びを実践していく。そのために、学び方を身に付けられるよう、授業の流れを一定にしていく。 ・場面や段落の中心、まとまりを児童が自分なりに考えて整理できるようにし、読む力を向上させる。 ・すすんで自分の思いなどが書けるよう、全教科を通じて意図的に自分の考えを書く時間を確保し取り組んでいく。書くことへの抵抗感をなくしていき様々な表現で書く力を育んでいく。 ・かけ算、わり算の筆算を正確にできるように基本的な計算力を身に付けさせる。また、図形の特徴を理解し、三角定規、コンパス、分度器を活用して正確に作図することができるよう力を育成していく。	①教科書の視写、国語辞典、漢字辞典の活用、「言葉の宝箱」「ことわざ調べ」「季節の詩」の活動を通して語彙を増やす。 ②全教科を通して学習の振り返り、テーマ作文など、自分の思いや考えを書く機会を意図的に増やす。 ③具体物、ICT 機器、デジタル教材を活用した手立てを用意する。 ④デジタルドリルを活用する。 ⑤自主学習に取り組み、自ら課題を設定し、自ら選んだ方法で解決できるよう支援していく。
5 学 年	・児童の学力に個人差がある。 ・文章の内容を正確に理解するために、語彙力の向上が必要である。 ・自分の思いや考えを表現するために、思考力や構成力の向上が必要である。 ・問題の意味を理解する力や基本的な計算力の向上が必要である。	・学習方法の選択肢を増やし、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。 ・朝読書や語句調べなどを通して、語彙力の向上を図る。 ・テーマ作文やスピーチなどを通して、テーマに沿った自分の考えを深めたり、実体験と結び付けたりすることで、書く力や話す力の向上を目指す。 ・整数や小数のかけ算、わり算の筆算など四則計算を正確にできるように基本的な計算力を身に付ける。	①学級図書などの環境整備とその活用 ②デジタルドリルの活用 ③自分の思いや考えを表現する場面を増やす。(作文やスピーチなど) ④学習に沿った計算練習の取組 ⑤前学年も含めた既習内容の復習
6 学 年	・学習に対する意欲の差が見られる。 ・国語では、文章や資料の読み取る力、語彙力の向上が必要	・全教科の学習を通して、学習者主体の学びを実践していく。そのために、自分の課題を知り、自己の学習に必要な課題を選択し、自由に学習していく。 ・叙述の特徴や文章構成に着目したり、資料では事実と分かったこと	①授業のシステム化を図る ②環境整備とその活用 ③デジタルドリルの活用 ④文章の意味を考えながら、要点を整理して読む活動を意識的に行う。 ⑤国語辞典などの活用、「こと

	である。 ・算数では、よく問題を読み理解する力や基本的な計算力の向上が必要である。	まとめたりする活動を行っていく。また、語句の意味や語彙を増やしていく。 ・基本的な計算力、既習内容を活用する力を身に付けていく。	わざ調べ」「季節の詩」の活動 ⑥学習に沿った計算練習の取組 ⑦前学年も含めた既習内容の復習
特別支援		・読み書きの基礎や日常生活に必要なコミュニケーションについて児童の実態に合わせた自立活動に取り組む。 ・基本的な体の動かし方やバランス感覚、力加減などを身に付ける。	① 発達検査やアセスメントツールをもとに、児童の実態把握をし、適切な指導、支援を行う。 ②粗大運動や協応動作を取り入れ、運動能力を高める。